

■ 訂正箇所

箇所		訂正前	訂正文
ページ	行		
15	13	人工衛星 <small>(→p.90)</small>	人工衛星 <small>(→p.31,43)</small>
39	15	電子地形図は,	電子地形図 ^① は,
208	写真 1	↑ 📷 食料品が不足しているスーパー (香川県高松市, 2018年 2月8日撮影)	↑ 📷 食料品が不足しているスーパー (福井県福井市, 2018年 2月8日撮影)

■ おもな記述変更・資料更新箇所

箇所		訂正前	訂正文
ページ	行		
15	15	地球の正確な形をあらわした楕円体	地球の正確な形に近似した楕円体
17	写真 4	ドーハでは、2022年にFIFAワールドカップが開催される。	ドーハでは、2022年にFIFAワールドカップが開催された。
22	図 1	図中：日本の東西南北端の経緯度を秒単位まで記載	
22	豆知識	日本はフィリピンより南にあるの？ 日本最南端の沖ノ鳥島は北緯約 20度 25分、フィリピン最北端の島や北マリアナ諸島最北端の島より南にある。	日本はフィリピンより南にあるの？ 日本最南端の沖ノ鳥島は北緯約 20度 25分 31秒、フィリピン最北端の島や北マリアナ諸島最北端の島より南にある。
33	11	関税の撤廃	関税の削減
52	図 1	図中：堆積物 (おもに礫) →堆積物 (おもに砂礫)	
93	10	資産が1億円をこえる 億円 <small>(約19億円, 2022年)</small>	資産が1億円をこえる 億円 <small>(約20億円, 2023年)</small>
94	側注 2	② BRICS 新興国として台頭したブラジル (Brazil)、ロシア (Russia)、インド (India)、中国 (China)、南アフリカ (South Africa) の5か国をさす。アメリカのエコノミストが名付けた呼称で、5か国は定期的に首脳会議を開いている。	② BRICS 本来は2000年代に新興国として台頭したブラジル、ロシア、インド、中国をさす「BRICs」という経済用語であった。2011年より南アフリカ共和国を加えて「BRICS」として首脳会議を開いているが、2024年からはサウジアラビアやイランなどが加わり11か国体制になる。
95	図 4	図中：騰衝 (トンチョン) →騰衝 (テンチョン)	
96	写真 1	ロッテワールドタワーは地上123階建ての世界第六位。	ロッテワールドタワーは、世界で7番目に高いビル。
96	19	世界5位のハブ港	世界7位のハブ港
98	側注 1	105の国と地域が加盟している。	106の国と地域が加盟している。
103	コラム	現在はASEANへの加盟を目指しているが、経済格差もあり交渉は難航している。	2022年にはASEANへの加盟が承認され、正式加盟に向けた手続きが今後行われる。
107	11	2020年からの新型コロナウイルス感染症による影響で人の交流は制限されているが、オンラインでの文化体験など相互交流が続けられている。 <small>(→p.35,99)</small>	2020年からの新型コロナウイルス感染症による影響で人の交流は一時制限されたが、受入再開後の観光客数は順調に回復している。 <small>(→p.35,99)</small>
110	14	インドの人口は13億をこえ、世界2位の人口大国に	インドの人口は14億をこえ、世界一の人口大国に
129	図 5	図中：2023年に更新。クロアチアのユーロ導入を反映	
133	図 4	図中：2023年に更新。クロアチアのシェンゲン協定加盟を反映	
133	1	EU非加盟国を含む26か国が加盟	EU非加盟国を含む27か国が加盟
151	即注 2	② TPP 環太平洋の国々の間で、関税やサービス、投資の自由化をめざす協定。アメリカが離脱したため、11か国によるTPP11協定が発効した(→p.157)。	② TPP 環太平洋の国々の間で、関税やサービス、投資の自由化をめざす協定。アメリカは交渉段階で離脱し、アメリカ以外によるCPTPP協定が発効した(→p.157)。
157	7	TPP11協定を結び、 <small>(→p.151,162)</small>	CPTPP協定を結び、 <small>(→p.151,162)</small>
162	図 4	図中：イギリスのCPTPP協定への加入を反映	
162	11	TPP11協定などの枠組み <small>(→p.157)</small>	CPTPP協定などの枠組み <small>(→p.157)</small>

箇所		訂正前	訂正文
ページ	行		
184	2	インドの人口は <u>中国に次いで世界第2位だが</u> 、 <u>2023年頃</u> (→p.110) <u>には中国をこえ、2064年頃にピークに達すると予測され</u> <u>ている。</u>	インドの人口は、 <u>2023年に中国をこえ世界一になった。</u> (→p.110) <u>今後も人口増加は続くが、2064年頃にピークに達すると</u> <u>予測されている。</u>
185	5	高齢化率は <u>29.1%</u> まで上昇し、合計特殊出生率は <u>1.30</u> (2021年) <u>にまで落ち込んでいる。</u>	高齢化率は <u>29.1%</u> まで上昇し、合計特殊出生率は <u>1.26</u> (2022年) <u>にまで落ち込んでいる。</u>
186	図2	↑2国・地域別の栄養不足人口割合(ハンガーマップ) <u>シリアや南スーダンなど、不安定な政情が続いている地域の</u> <u>データは欠けているが、栄養不足人口の割合が高い状態が続い</u> <u>ているとみられる。</u>	↑2国・地域別の栄養不足人口割合(ハンガーマップ) <u>不安定な政情が続いている地域や内陸国で、栄養不足人口の割</u> <u>合が高い状態がみられる。</u>
186	2	<u>2017年現在</u> 、世界の穀物生産量は約 <u>26億</u> トンで、	<u>2023年現在</u> 、世界の穀物生産量は約 <u>30億</u> トンで、
186	5	^き が 飢餓に苦しむ人々が約7億 <u>6000</u> 万人、つまり約 <u>10</u> 人に1 (2020年推計) 人もいて、	^き が 飢餓に苦しむ人々が約7億 <u>3500</u> 万人、つまり約 <u>11</u> 人に1 (2022年推計) 人もいて、
186	側注1	① 栄養不足 <u>WHO(世界保健機関)では、1人が健康な生活を送るのに</u> <u>必要な1日の食料供給量を2,100kcalとしている。</u>	① 栄養不足 <u>十分な食料、すなわち、健康的で活動的な生活を送るため</u> <u>に十分な食物エネルギー量を継続的に入手することができ</u> <u>ない状態をいう。</u>

図版・グラフなどの統計更新

1章1	球面上の世界	p.16 図1/ 図3
1章2	国内や国家間の結びつき	p.26 図2/ 図3, p.27 図6, p.30 図4/ 図5, p.32 図3, p.35 図8
2章3	産業と生活文化	p.77 図5
3章1	事例 東アジア	p.95 図6, p.96 図2, p.97 図8, p.99 図4/ 図5/ 図7
3章2	事例 東南アジア	p.106 図4, p.107 図5
3章4	事例 イスラーム圏	p.111 図5, p.118 図3
3章6	事例 EUと周辺諸国	p.136 図1, p.142 図2/ 図4
3章9	ラテンアメリカ	p.156 図4
4章2	資源・エネルギー問題	p.177 表9, p.180 図3
4章3	人口・食料問題	p.186 図2/ 図3/ 図4/ 表5, p.187 図6
5章1	日本の自然災害と防災	p.199 図1